

（４）調査研究発表

鉢巻式山城を考える

－ 鉢巻式山城とモリの山信仰についての一考察 －

佐藤智幸

I はじめに

山形県鶴岡市は、近世においてはいわゆる「徳川四天王」の筆頭とされる酒井氏の城下町として知られており、酒井氏入部前の中近世には武藤（大宝寺）氏（以下武藤氏）が治める土地であった。

鶴岡市をはじめ庄内地方は、中世に位置づけられる城館が多く確認されている地域としても知られている。県教委が行った中世城館に関する悉皆調査等により、鶴岡市全体では145か所の中世城館が確認されており、鶴岡市全体の遺跡数の約25%に相当する（山形県教委1997）。

しかし、これまでに遺跡の一部でも考古学的な発掘調査が行われた山城・平山城といった中世城館はそれほど多くない。さらに、山城・平山城といった城館は古文書等の文献史料も少ないため、その全容についてまだまだ不明な点が多いままである。

筆者は、平成23年度に鶴岡市下清水地区の出張坂城跡、水沢地区の木の下館跡と、2か所の城館について発掘調査を担当した（福岡・佐藤2012、福岡・小笠原・佐藤2012）。また、それら2遺跡の調査報告書を作成するにあたり、鉢巻式山城という特異な形状の山城が鶴岡市内に存在することがわかった。さらに、鶴岡市清水地区に所在する「モリの山」として有名な三森山において、「モリ供養」という民俗行事が行われており、三森山は鉢巻式山城とは近接している、ということがわかった。そこで本稿では、先学の研究に基づき、鉢巻式山城と「モリの山」信仰（モリ供養）との関連性について若干の考察を行うものとする。

なお、これまで先学諸氏が研究をまとめられ、多くの資料が蓄積しているものの、紙面の都合上、各々の研究史は割愛させていただく。

II 鶴岡市の中世城館の分布の特徴

次に、中世城館の特徴について、その概要を述べる。まず、全国的には、山城・平山城が大半であり、平城が少数である。また、酒井英一氏によれば、鶴岡市周辺における築城地の特徴として以下の4点が指摘できるという（酒井1992）。①小国街道沿いと東西方向に流れる川と交わる地域。②（越後と）庄内平野の出入口にあたる摩耶山地北麓縁辺部や田川・湯田川地区。③朝日地域の大鳥街道沿い。④浜街道沿いの鼠ヶ関、大岩川、三瀬地区。

この酒井氏の指摘からもわかるように、越後と庄内とを結ぶ街道（浜街道・小国街道・大鳥街道）や、置賜と庄内を結ぶ街道（朝日軍道）沿い、及び街道を縫うように流れる河川沿いに多く分布している。また、一部の城館は、日本海沿岸が見渡せる海岸沿いの山中に分布している。一例として、温海地域にある国指定史跡の小国城は、街道はもちろんのこと、遠く日本海まで見渡せる交通上・軍事上、重要な場所に築城されている。

以上から、四方を山・海に囲まれた庄内の地にとって、街道沿いや沿岸部は、単なる交通路としてだけでなく、敵の襲来や内外の不穏な動きに備え、軍事的に防備を固めなければならない重要な場所と認識され、そのような場所に重点的に築城されたことが考えられる。さらに、狼煙等の伝令や合図を確認できるよう、山々を挟んだ場所に築城している点も特徴といえる。

また、鶴岡市では「楯山」や「中楯」、「楯川原」、「^き城の下」等、その地に城館があったことを想起させる地名が現在でも多く残っているのも特徴といえる。

III 鉢巻式山城と「モリの山」

「鉢巻式」の山城は、鶴岡市湯田川字滝ノ沢にある鉢巻山館（下山館）及び鶴岡市羽黒町手向の蝦夷館に見ら

れる形態であり、提唱した酒井氏によると、「山頂を一重の空堀と土塁で囲む小規模な館址」（酒井 1997）のことである。

庄内地方では鉢巻山館・蝦夷館といった2つの城館が知られているが、その他に、山形県内においては村山市の河島山遺跡、東根市の黒鳥山遺跡が鉢巻式山城の形態を持つことで知られている。「鉢巻式」の用語であるが、内陸においては、遺跡の形状から「鉢巻式」、庄内においては、指標遺跡として「鉢巻山館」から「鉢巻山式」の用語が用いられており、用語が統一されていない。そのため、本稿では、その形状を評価し、「鉢巻式」の名称を用いることとする。

さて、鶴岡市における鉢巻式山城については、先述したとおり2か所の遺跡が知られているが、東根市・黒鳥山遺跡、村山市・河島山遺跡とともに、かつてはいわゆるアイヌ文化の「チャシ」的な性格を持つ遺跡として認識されてきた（川崎 1961a・b）。しかし、現在は、北海道に所在する「チャシ」は近世に築造されたことが明らかとなり、「チャシ」説は否定されている。そのため、中世の城館という考えが通説である。鉢巻式山城は、伊藤清郎氏によって、中世城館の形成期に位置づけられ、比較的古い段階の中世城館とする説が提唱されている。同氏は、中世的郡郷荘（荘園）が設置され、中世社会が形成されはじめる11世紀末～12世紀代の築造と想定している（伊藤 1998）。また、保角里志氏は「11世紀後半～鎌倉時代までの村領主が主導した村人の避難施設」とする説をとっている（黒鳥山遺跡発掘調査団 2002）。もっとも、これらの鉢巻式山城で古文書等の文献に記載があるものはない。また、発掘調査が行われたのは東根市の黒鳥山遺跡のみであり、同遺跡からは年代比定につながる遺構の検出や遺物の出土はなかった（黒鳥山遺跡発掘調査団 2002）。したがって、鉢巻式山城の年代比定には慎重にならなければならない。

さて、ここで筆者が注目したいのは、これら鉢巻式山城の共通性として、遺跡あるいはその近接地が「モリの山」すなわち「霊場」として古くからの信仰の対象となっていることだ。県内にある「モリの山」としては、「庄内のモリ供養の習俗」として国の指定を受けている鶴岡市の「三森山」をはじめ、東根市の「大森山」、村山市の「河島山」が知られているが、武田正氏によれば、加

えて鶴岡市の「羽黒山」・「金峰山」もまた「モリの山」であるという（武田 1978）。

これら4遺跡を概観すると、蝦夷館は、「モリの山」以上に古来より山岳信仰（修験道）の聖地・霊場として有名な羽黒山麓の丘陵上に位置している。

鉢巻山館は、「モリ供養」で有名な三森山の近接地に位置し、三森山と対峙する鉢巻山の山上に築造されている（鉢巻山館の北方が三森山）。なお、三森山の山中には、供養が行われる堂の他、多くの石造物が建立されており、筆者の所見では、それらに加え、山中には堀切や曲輪、土塁と思われる人工的な地形が多くあり、「モリの山」と同時に中世城館の可能性もある。

河島山遺跡は、遺跡が位置する河島山自体が霊場であり、その山中に位置している。河島山は、古くから「モリの山」として信仰の対象となっており、山中には板碑や五輪塔、宝篋印塔等の石造物が数多く建立され、経筒や一字一石経も発見されている。

黒鳥山遺跡は、「モリの山」として知られている大森山と対峙した位置関係となり、黒鳥山遺跡の南方が大森山となる。大森山は中世火葬墓との指摘がある塚群や通称「タイパラ地蔵」と呼ばれる五輪塔、磨崖仏、経塚、岩窟が見られ、古くから霊場とされてきた。なお、霊場としての大森山の様相については、石井浩幸氏によって次の4つの画期が指摘されている（石井 1990）。①平安時代（11～12世紀）浄土の入口、祖霊の地。②南北朝～室町（14～16世紀）中世霊場へ発展。③近世初頭（17世紀～）檀家制度葬式仏教の民衆化。④現在霊場の忘却。

IV 「モリの山」とモリ供養

これまで「鉢巻山式」山城とされる4遺跡を見てきたが、いずれも「モリの山」として信仰の対象とされてきた場所及び、その近隣の地に所在することが共通点としている。

それでは、「モリの山」とはなんだろうか。戸川安章氏によれば、「霊格の高い祖霊に昇華する以前の死霊がとどまる山」のことであり、「死者の屍は墓地にのこるが、その魂はモリの山にこもって汚れを浄化」し、「やや清まるとさらに高い山（筆者註：金峰山・羽黒山等）にのぼり、完全に浄化すると月山や鳥海山に鎮まる」と

いう（戸川 1973）。すなわち、「在地霊場で死者の魂は浄化され、一定の歳月をへてさらに高い山などの大霊場に鎮まる」という重層構造をもつ（川崎 1992）ものである。さらに、死者の霊が羽黒山、金峰山といった「さらに高い山」を経て、月山や鳥海山等の大霊場へと鎮まる前段階である、魂が浄化される場所としての各地域の小規模な霊場（三森山、河島山、大森山等）が「モリ」あるいは「モリの山」なのである。なお、先述したとおり、武田氏のように、羽黒山等の「さらに高い山」についても「モリの山」とする考えもあり、蝦夷館についても他の3遺跡と同様に考えることができよう。なお、「モリの山」信仰に関する宗教観、他界観については、石井浩幸氏が詳しい分析を行っており、本稿における宗教観・他界観については石井氏の分析に基づくものである（石井 2003）。

「モリ供養」とは、「モリ」において死霊を現世とは隔てたあの世へと導くための、魂を浄化するための供養のことであり、鈴木岩弓氏は現在のモリ供養について「庄内地方を中心に、盆の時期にモリと呼ばれる特別な場所や寺の本堂で行われる有縁無縁供養」と定義している（鈴木 2009）。

現在、庄内一円で行われているモリ供養の中でも、鶴岡市清水地区で行われているモリ供養は特に歴史が深く、古記録から、少なくとも近世（1700年代）には行われたことがわかっている。同地区のモリ供養は現在もなお、寺の本堂ではなく、「モリの山」である三森山の山中で行われている点が特筆され、平成12年（2000）に国によって記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財に指定された。清水地区のモリ供養は、曹洞宗である下清水地区の天翁寺を中心とし、中清水の桑願院、上清水の善住寺に加え、浄土真宗である中清水の隆安寺の4つの寺院により三森山の山中に建立された「優婆堂」、「閻魔堂」、「大日堂」、「観音堂」、「地藏堂」、「仲堂」、「阿弥陀堂」の7つの堂を中心に行われている。三森山の山中にはそれら堂以外に、「藤墓」と称される墓石群をはじめ、石碑や石塔、供養塔といった石造物が数多く建立されている。なお、三森山は、モリ供養の日以外に入山することは禁忌とされている。

清水地区の「モリ供養」は毎年8月22・23日に行われており、地元清水地区の住民をはじめ、多くの参拝

者が三森山へと集まる。かつては、庄内地方では知らないものはないほどに死霊信仰として有名なものであり、正月の節句や神社の祭礼をはるかに越える村中の一大まつりだったという（北村 1956）。現在は、行事の形骸化や参拝者の高齢化、会場が山中の峰々という地理的条件もあり、筆者の実感ではあるが、北村氏が述べるほど、かつての盛大さはみられない。

社会学者の嶋根克己氏は、現代の葬送儀礼の4つの機能として、①死体処理（埋葬）。②社会・経済的継承。③社会関係の修復・維持。④記憶の共有化。の4つをあげている（嶋根 2009）。同氏の論に基づけば、少なくとも、現在行われている「モリ供養」は、8月22・23日という特定の日に「有縁無縁供養」を行うことにより、希薄になりつつある人と人との社会的な関係、地域的な関係をもう一度修復・維持し、また供養される死者の記憶を、その場に居合わせた人々によって社会的・集団的に確認・想起する「死者についての集合的記憶の形成」（嶋根 2009）が行われる行事ととらえることができる。

V 小結

これまで見てきたように、鉢巻式山城とされてきた遺跡は、本当に「山城」として認識していいのか、という疑問が想起される。すなわち、本当に戦闘・防御のための施設として構築されたのか、という疑問である。すでに山口博之氏や伊藤氏等によって中世城館の築城地と霊場・信仰との関連性は指摘されているところである（山口 1993、伊藤 1998）。実際、出張坂城では、「古楯稲荷」の社が城内にあり、明治初期の絵巻物『庄内領郡中名勝旧蹟図』においてもその様相が確認できる（福岡・佐藤 2012）。また、今回の発掘調査では確認できなかったものの、出張坂城跡からは、過去に宝篋印塔が出土したとされており（秋保 1997）、木の下館跡の近接地に「城の下墳墓」と称する中世墳墓が存在したという（川崎 1958・1959）。その点については筆者も伊藤氏や山口氏の論に従うものである。

以上から、鉢巻式山城とは、筆者は次のような性格の遺跡ではないか、と考える。

鉢巻式山城が所在する場所及びその近接地は古くから「モリの山」信仰の地すなわち霊場として信仰の対象となっており、山中には信仰に伴う石造物や塚等が多く

⑫出版物

ア．普及・業務報告

書名	発行年月日
埋文やまがた第47号	2011年9月30日
埋文やまがた第48号	2012年1月1日

イ．調査説明会資料

書名	発行年月日
山形城三の丸跡8次	2011年7月11日
押出遺跡4次	2011年11月12日
山形城三の丸跡9次	2011年8月2日
沼袋遺跡	2011年11月5日
八反遺跡	2011年10月15日
田向遺跡2次	2011年6月10日
清水遺跡（1地区）2次	2011年10月15日
清水遺跡（2地区2次・3次）	2011年11月3日
清水遺跡（4地区）	2011年9月7日
北原2遺跡2次	2011年6月28日
森の原遺跡2次	2011年9月25日
稲荷山館跡3次	2011年9月22日
出張坂城跡	2011年6月16日
木の下館跡4次	2011年11月18日

ウ．調査報告書

シリーズNo	書名	発行年月日
195	行司免遺跡第1～4次発掘調査報告書	2012年3月31日
196	矢馳 A 遺跡第2～4次発掘調査報告書	〃
197	川内袋遺跡発掘調査報告書	〃
198	木の下館跡発掘調査報告書	〃
199	出張坂城跡発掘調査報告書	〃
200	高瀬山遺跡(HO)3期発掘調査報告書	〃
201	鎌倉上遺跡第2次発掘調査報告書	〃
202	山形城三の丸跡第5・7・8次発掘調査報告書	〃
203	堤屋敷遺跡第2次・下屋敷遺跡発掘調査報告書	〃
204	川前2遺跡第3・4次発掘調査報告書	〃
205	作野遺跡第3次発掘調査報告書	〃

エ．発掘調査報告会資料

資料名	発行年月日
平成23年度発掘調査速報会	2011年12月11日

⑬ホームページ

主な項目と内容は以下のとおりです。

発掘調査遺跡一覧	発掘調査遺跡や整理作業中の遺跡の紹介
発掘調査速報	調査期間中、遺跡の状況を毎週更新して紹介
イベント情報	ふるさと考古学講座、調査説明会、外部展示、各種イベント情報の提供
センター刊行物案内	調査報告書、広報誌などの刊行物の紹介
学校教育への協力	出前授業の紹介、埋蔵文化財を活かした授業のアイデアなどの提供とその状況など
埋文やまがた	広報誌「埋文やまがた」を紹介するとともに、これまでに刊行したバックナンバーの閲覧
センター概要	センターの紹介や、情報公開制度に基づいた、センター情報の提供

（3）情報処理

収蔵図書データベース 新収蔵図書 1,742冊のデータ入力実施（File Maker Pro使用）

残っている。また、仮に戦闘や防御のための施設だと考えた場合、空堀と土塁で囲っただけの設備ではあまりにも貧弱であり、曲輪や堀切等の防御に適した構造物も持たないため、物理的に戦闘や防御に適しているとは言い難い。また、その簡素な造りから、鉢巻式山城は見張りや狼煙等の合図・伝令のための施設、とする考えもあるだろう。しかし、耐久性が低いため、防御のための設備を整えた城館より早く落城することは明らかである。ましてや、霊場として信仰の対象となっている（聖なる）地やその近接地に、防御の設備が貧弱な施設を築造するだろうか。上杉謙信は、その居城だった春日山城内に毘沙門堂を建立し、戦勝を祈願したことは有名である。このように、信仰の重要性を考慮すると、鉢巻式山城とは、中世において戦闘や防御に用いた施設、すなわち城館というよりは、(モリの山)信仰に伴う何らかの施設である、という可能性も考えられるのではないか、ということである。

河島山遺跡について、川崎氏は空堀内部の空間をアジュール（聖域）、空堀を結界ととらえている（川崎1992）が、遺跡内において、信仰に関わる儀礼・儀式が行われた可能性は十分に考えられる。実際、鶴岡市の三森山で行われている「モリ供養」では、土塁状の地形で囲まれた山中の平場に堂が建てられており、その堂を背にして供養が行われる（いつ頃から現在のような形態がとられているのか、現時点では不明である）。現時点で明確に論じることはできないが、これら鉢巻式山城とされる遺跡においても、何らかの信仰に関する儀式が行われていた可能性についても、考え方の一つとして提示しておきたい。

VI おわりに

本稿では、主として鶴岡市鉢巻山館、蝦夷館、村山市河島山遺跡、東根市黒鳥山遺跡の4遺跡について、「モリの山」信仰との関連について述べてきた。鉢巻式山城は、発掘調査事例や出土遺物、古文書等の文献が乏しく、遺跡の性格や年代については推論の域を出ないが、これ

までアイヌ文化の「チャシ」であったり、中世初期の城館とする考えがある中で、遺跡が所在する山全体や近接する山が「モリの山」とされている点に着目し、「モリの山」信仰と関連させて考えてみた。

筆者は、これまで鉢巻式山城や「モリの山」信仰については不学であったが、出張坂城の発掘調査に際し、遺跡が所在する清水地区内で「モリ供養の習俗」が行われていることを知り、その習俗に興味・関心を持った。そこで、出張坂城跡・木の下館跡の発掘調査で主任だった福岡和彦前主任調査研究員、地元鶴岡市出身である植松暁彦主任調査研究員、中世の石造物に詳しい伊藤純子前調査員、佐藤の4名で「モリ供養」を実見するため、昨年(平成23年)、供養が行われる8月22日に現地に行った。現地では「モリ供養」すなわち「モリの山」信仰の実際を如実にうかがい知ることができた。また、先述したとおり、山中に堀切や曲輪、土塁と思われる人工的な地形が多々あることから、中世城館と「モリの山」信仰がリンクしないかどうか疑問を持つに至った。報告書の執筆に際し、鶴岡市の城館の特徴的な構造として「鉢巻山式山城」という形態があり、その性格や年代の位置付けが定まっていないことがわかり、県内の他の鉢巻式の形態を持つ遺跡はいずれも「モリの山」信仰と密接に関わっていることが明らかになった。

今回は、「鉢巻式山城」に焦点を当てて考えたが、今後は、信仰と他の城館の関連性を含め、個々の遺跡と信仰について考察を行い、鶴岡市や山形県内の中世城館の特徴について、一定の方向性を導いていきたい。

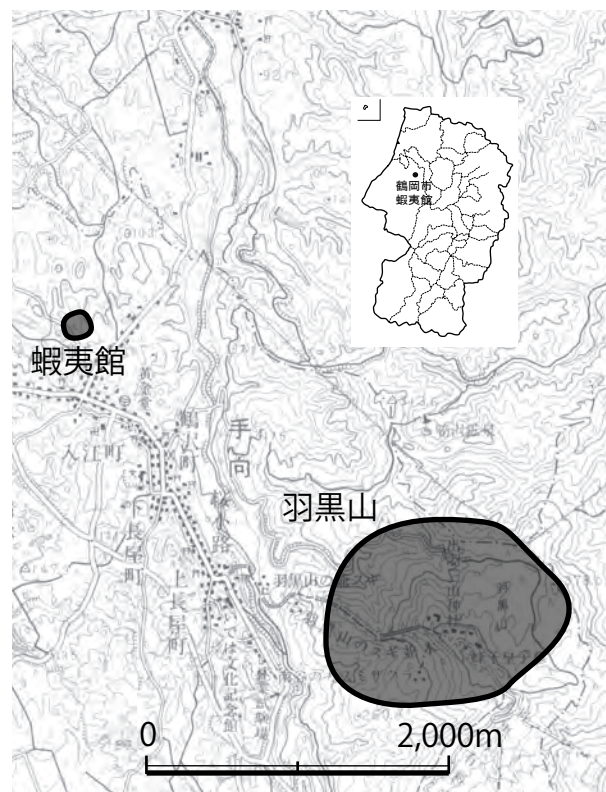
最後に、本稿を執筆するにあたり、出張坂城跡・木の下館跡の発掘調査・報告書作成においてお世話になった主任の福岡和彦前主任調査研究員、小笠原伊之調査研究員、調査期間中や報告書作成に際し、鶴岡市の中世城館について御指導・御教示を賜った、鶴岡市郷土資料館の秋保良氏、モリ供養の習俗を快く見学させていただいた下清水地区天翁寺の佐藤丈六住職、発掘調査・モリ供養の習俗と多岐にわたり御協力を賜った、下清水地区地権者の五十嵐眞一氏に、この場を借りて感謝申し上げます。

参考・引用文献

- 北村純太郎 1956 『大泉村史』 西田川郡大泉村
- 川崎利夫 1958 「羽前水沢に於ける中世墳墓資料」『山形考古』第5号
- 川崎利夫 1959 「羽前水沢附近における中世火葬墳と須恵系蔵骨の数例」『山形考古』第6号
- 川崎利夫 1961a 「^{チャシ}山寨に関する諸問題（上）」『羽陽文化』第51号
- 川崎利夫 1961b 「^{チャシ}山寨に関する諸問題（下）」『羽陽文化』第52号
- 戸川安章 1973 『日本の民俗 山形』 第一法規出版
- 武田正 1978 「山形県の葬送・墓制」『東北の葬送・墓制』 明玄書房
- 石井浩幸 1990 「大森山」・モリノヤマ ―地域霊場の実体― 『山形県地域史研究』第16号
- 川崎利夫 1992 「中世の墓地と板碑 ―村山市河島山遺跡を例として―」『山形史学研究』第25号
- 酒井英一 1992 「摩耶山地の中世城館跡分布」『摩耶山』 山形県総合学術調査会
- 山口博之 1993 「天童・霊場・領主 ―天童古城はどうして舞鶴山に構えられるのか―」『天童の城と館 ―城館が物語る郷土の歴史―』 天童市旧東村山郡役所資料館
- 佐藤幸作 1996 「河島山」『山形県中世城館遺跡調査報告書』第2集 山形県教育委員会
- 秋保良 1997 「出張坂城（妙味水城）」・鉢巻山館（下山館）『山形県中世城館遺跡調査報告書』第3集 山形県教育委員会
- 酒井英一 1997 「庄内南部地区の中世城館の分布と特徴」『山形県中世城館遺跡調査報告書』第3集 山形県教育委員会
- 高橋爽元 1997 「蝦夷館（薬師沢館）」『山形県中世城館遺跡調査報告書』第3集 山形県教育委員会
- 山形県教育委員会 1997 『山形県中世城館遺跡調査報告書』第3集 山形県教育委員会
- 伊藤清郎 1998 『中世の城と祈り ―出羽南部を中心に―』 岩田書院
- 保角里志他 2002 『東根市黒鳥山遺跡発掘調査報告書』 黒鳥山遺跡発掘調査団
- 石井浩幸 2003 「『モリの山』信仰の研究（1） ―山形県内の事例と諸相―」『さあべい』第20号
- 嶋根克己 2009 「葬送儀礼と墳墓の社会的変容」『墓から探る社会』 雄山閣
- 鈴木岩弓 2009 「モリ供養とは何か」『庄内のモリ供養の習俗 「庄内のモリ供養の習俗」調査報告書』 山形県教育委員会
- 福岡和彦・小笠原伊之・佐藤智幸 2012 『木の下館跡第1～4次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第198集
財団法人山形県埋蔵文化財センター
- 福岡和彦・佐藤智幸 2012 『出張坂城跡第1・2次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第199集 財団法人山形県埋蔵文化財センター



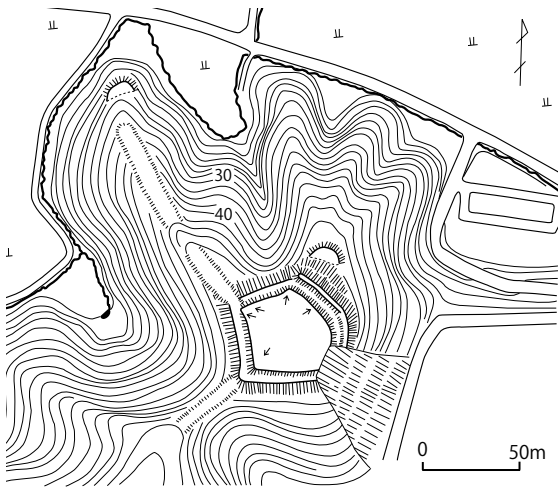
鉢巻山館遺跡位置図



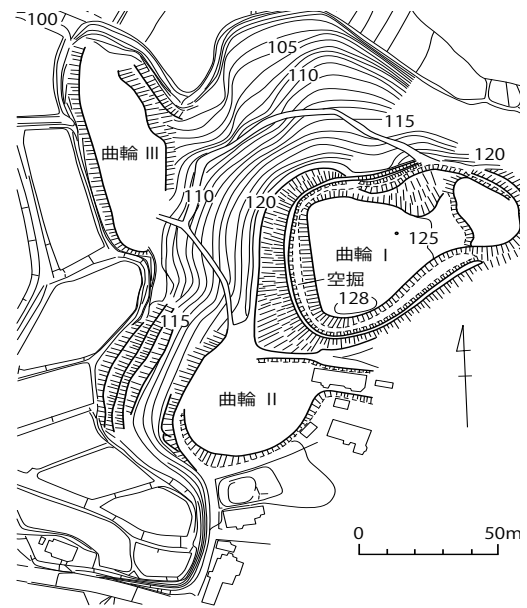
蝦夷館遺跡位置図



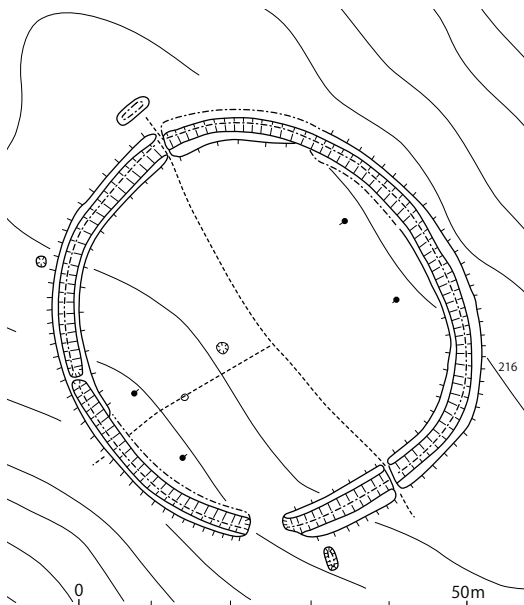
河島山遺跡・黒鳥山遺跡位置図



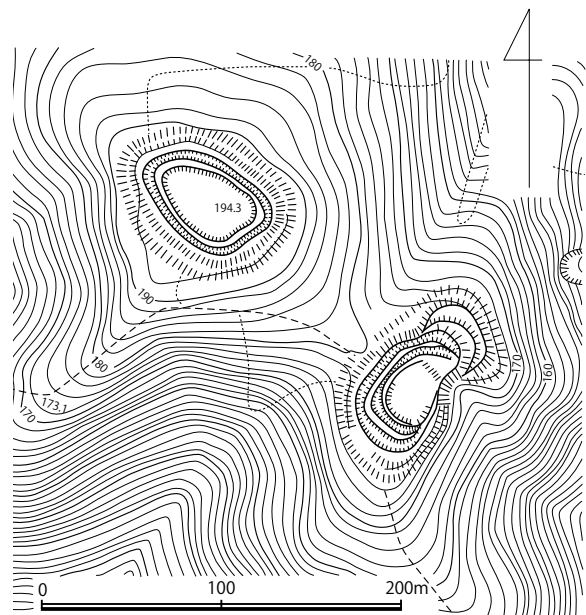
鉢巻山館縄張図
原図：秋保 1997



蝦夷館縄張図
原図：高橋 1997



黒鳥山遺跡縄張図
原図：黒鳥山遺跡発掘調査団 2002



河島山遺跡縄張図
原図：佐藤（幸） 1996



小国城から望む小国街道



小国城から望む小国街道



小国城から望む日本海



三森山登山口



三森山の曲輪状地形



三森山の堀切状地形



三森山に建立された堂及び、平場と土塁状地形



「モリ供養」(施餓鬼供養) 風景